TAJIMA RIVER

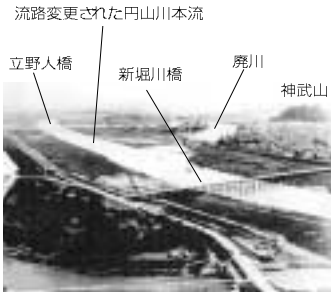
但馬の川ものがたり

円山川・河川改修物語

私たちが何気なく目にしている円山川下流域の風景、それは長い年月をかけて改修されてきた姿であった。

円山川本流だった廃川（豊岡市市民会館前）

大正中期・改修前の堀川橋（豊岡市）を中心とした情景（南を望む）



昭和10年改修後の情景。左写真にある小田井町の町並みが消え、堤外地となっている。

但馬の中央部を北流する、但馬最大の一級河川・円山川。大きな恵みをもたらしてきた川ですが、ひとたび大出水となれば、洪水を巻き起こす暴れ川となり、人々は水害の猛威に苦しめられてきました。

毎年のように大氾濫を起こす円山川の流域に暮らす人々にとって、治水工事は最優先課題。江戸時代には、住民たちが河川改修の陳情を、くり返し行ったとされる記録が残っています。

しかし、当時は各藩が政治を取り仕切っていた時代。流域は豊岡藩、出石藩、天領と領地が分かれていたため、会議は開くものの、お互いの利害関係が一致せず統一の工事は実現しませんでした。（各藩では小規模な改修工事は行われていた）

また、各藩の財政は乏しく、資金もありません。それでも沿岸の村々がお金を出し合って改修に踏み出しましたが、寄州の土砂を手こぎ舟で掘るのが精一杯。改修技術も持ち合わせていませんでした。円山川の河川改修は、人々にとって悲願だったのです。

そして、明治維新が始まると、大規模な河川改修が行えるチャンスが到来します。日本も近代国家の夜明けを迎え、河川の管理は国が統轄することになったのです。国家事業ともなれば、予算・技術ともにこれまでとは比べものになりません。

住民たちは治水組合を作り、政府に積極的に働きかけました。明治20年頃になると、円山川下流部で近代的な測量が行われ、いよいよ大改修が行われるという気運が高まり、陳情運動が激化します。

そして、大正11年。念願が叶い、国の直轄工事として、初めての本格的な大改修事業がスタート。当時の河川工事は、川の流れを真っ直ぐにすることが主でした。

川の流れは曲がりくねっているのが、本来の姿。川の水が流れの中で浸食したり、堆積してできる曲線が川蛇行を作ります。この蛇行が氾濫の原因のひとつとなっていたので、川を直線にすることが大切だったのです。

大改修が行われる前の円山川も、今とは想像がつかないほどの曲がりくねった川でした。

中でも「大磯の大曲り（現豊岡市のじばさんビル付近）」の流路変更は、その代表的な工事です。ショートカットにより、支流となった湾曲部は、今日、豊岡市民会館前を流れる廃川。この川こそ、かつての本流だったのです。

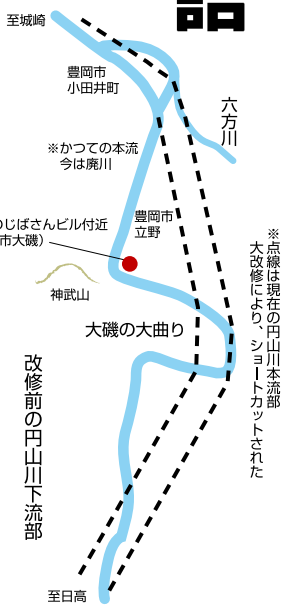
その後も、改修工事はたびたび繰り返され、川幅の広い、ゆったりとした下流の風景が形成されてきました。

今、私たちが目にする円山川は、先人たちが永い年月をかけて改修してきた努力の結晶。こうした河川改修の歴史を知ると、見慣れた川の流れも少し違って見えます。

協力：豊岡市史料整理室

国土交通省豊岡河川国道事務所

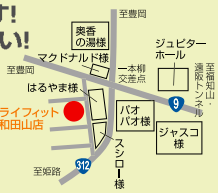
参考資料：『円山川あれこれ』



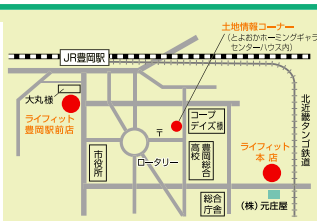
まごころ1番店をめざす！
不動産のライフィット！
土・日曜も営業しています！
お気軽にお立ち寄り下さい！

11月より和田山店オープン!!

和田山店
朝来市和田山町玉置1107-4
サンライズ和田山102号
TEL.079-672-6565
FAX.079-672-6566



本店
豊岡市幸町4番4号
TEL.0796-24-2011
FAX.0796-24-2077
豊岡駅前店
豊岡市大手町1番27号
TEL.0796-26-6565
FAX.0796-26-6566



LIFIT
株式会社 ライフィット
（社）兵庫県宅地建物取引業協会 宅地建物取引業者免許
兵庫県知事（3）第650061号
ホームページ http://www.lifit.jp
E-maiアドレス info@lifit.jp

アパート・マンション・貸家・土地・中古住宅・店舗の売買など、なんでもライフィットへお気軽にご相談ください。
●ご希望の物件情報を検索できます。●大好評！情報誌「ライフィットタイムズ」無料進呈中!!

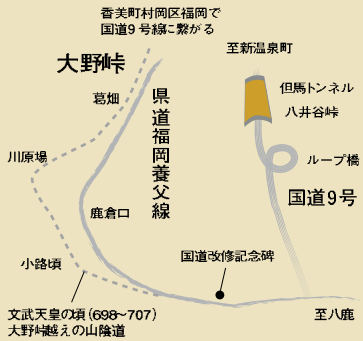
但馬街道

大野峠

おおのとうげ

【養父市関宮～香美町村岡】

明治から昭和にかけて大きく変更された主要道新しくきりひらかれた道が地元住民の生活を支える



大野峠を越える県道福岡養父線は、八井谷峠を越える国道9号線と同様、養父市関宮と香美町村岡区を結ぶ道路です。

但馬トンネルが開通し、距離が大幅に短縮されて以来、八井谷峠回りが主要道となりましたが、明治32年から昭和43年まで、大野峠回りの道が山陰の幹線道路(旧国道)でした。

関宮は古くから道との縁が深く、山陰街道の一部として、政治・文化・経済の動脈ともいうべき土地です。

また、村岡は江戸時代に城下町として栄えた中心地。この2つの土地をむすぶ道は、常に必要不可欠でした。

大野峠付近は昔から有名な化石産地。周辺の地層からは貝の化石が採れるそう。

文武天皇の頃、小路頃、川原場、葛畑を経て、大野峠を越えるルートが山陰道として制定されました。

しかし、村岡断層の地質上、がけくずれが多かったため、八井谷峠回りへと変更され、長くこの道が使われました。

明治政府の発足後、主要街道を国道に認定する事業が進められます。この時、古くから山陰道として使われていた八井谷峠回りの道が国道に認定されましたが、その後、ルートは大野峠回りへと変更されます。

明治45年に建立された国道改修の記念碑。正面には「為、片岡寿左右衛門翁」と刻まれている。

その理由のひとつに、国際的緊張の渦中にあった当時は、鉄道の通じていない山陰の道路整備が国家的に急務であったことが考えられます。

残された記録は僅かですが、相当な難工事だったといいます。尾原から鹿倉口までは、道のない山の中腹を掘削し、幅12尺(3・63メートル)の道路を新設。これが当時いかに危険と苦労を伴う作業だったか、想像に難くありません。

明治10年頃に葛畑の道路拡幅工事が行われた。以前の道が、現在の県道のすぐ近くに残っている。

また、ある地元政治家の惜しみない尽力も大きく関わっていました。

この国道路線変更を発意したのが関宮村の初代村長、片岡寿左衛門です。旧轟村の住人で、有力な地方政治家だった片岡氏は、地元住民や兎塚村(現香美町村岡区)関係者らに働きかけ、路線変更を中央政府の承認にまで導きました。

明治32年、国道改修と共に路線変更が成就。片岡氏の功績を讃えて、尾原の道路脇に記念碑が建てられています。

約70年間、国道として産業、経済などに大きな役割を果たしてきた大野峠の県道。その任を終えた今も、地元住民の大切な生活道路、産業道路であることに変わりありません。

協力：養父市教育委員会
近畿民具学会　西村修さん
国土交通省豊岡河川国道事務所

資料：関宮町史資料集